楓和へ

あなたが生まれて、二ヶ月が経ちました。この手紙を渡すころには、きっと楓和はいろんな経験をして、いろんなことを考えて、生きているのでしょう。楓和と過ごす毎日を、わたしも当たり前のように感じているかもしれません。
でも、今、わたしの腕の中で泣いておっぱいをほしがっている、小さくてかわいい楓和を見ていると、この温もりは奇跡だと思うのです。生まれてきてくれて、ありがとう。
あなたの命が宿ったときのことを伝えたくて、こうして手紙を書くことにしました。
あなたのお父さんと結婚したのは、2018年2月。子どもがほしいと思っていたので、自然に授かれるように暮らしていました。
しかし、妊娠したいならば「今日あたりがよい」というタイミングがあります。それを気にすることが、わたしたちにとって少しずつストレスになりました。

sample